日本刀の源流「蕨手刀」に思いを寄せて

NHK 歴史探偵「日本の刀剣」視聴記録&資料収集

添付　蕨手刀を手に戦った東北の蝦夷に思いを寄せて
古代東北の和鉄の道 資料収集

R0409warabiteweb.pdf　　2022.8.20.　Mutsu Nakanishi

蝦夷に伝わって武器としての進化を遂げた蝦夷の「蕨手刀」　人数的に劣勢な蝦夷が
坂上田村麻呂などの蝦夷征討軍を苦しめる原動力に。そして日本刀の源流になったという

畿内政権と戦った蝦夷国アテルイの武器
蕨手刀の分布

騎馬部隊の存在…阿弖流為が、何故一次蝦夷征伐で朝廷軍を蹴散らせたか？
圧倒的な騎馬戦力が有ったからではないかと。
蝦夷３８年戦争により、騎馬部隊による斬撃の有効性が立証されたとしたら？
一機にその方向で戦略物資たる、太刀の構造や馬の確保の見直しが始まるだろう。
蕨手刀の能力を最大限に引き出すのは、騎乗で片手で振り回せる手軽さと、
片刃で柄が刀身に対し湾曲する「斬撃性」だった。
それを極限迄高めたのが…日本刀。そんな背景を持つ。

清水山将軍塚が見下ろす 京都 清水寺の舞台の下　緑に包まれる 蝦夷の族長　阿弖流為と母禮の顕彰碑

参考　蝦夷の雄「アテルイ」の痕跡「京都清水寺・将軍塚」
https://infokkkna2.com/ironroad2/2022htm/iron18/R0409warabitewebAterui.pdf

8月21日　久し振りに　阿弖流為/母禮の顕彰碑に出会ってきました。
平和に尽くした坂上田村麻呂と蝦夷の族長　阿弖流為に思いを馳せつつ
大きな時代の転換期の今　希望にみちた穏やかな未来がひらけるようを祈りました

NHK 歴史探偵「日本の刀剣」視聴記録&資料収集
添付 蕨手刀を手に戦った東北の蝦夷に思いを寄せて古代東北の和鉄の道 資料収集

https://infokkkna2.com/ironroad2/2022htm/iron18/R0409warabiteweb.pdf
https://infokkkna2.com/ironroad2/2022htm/iron18/R0409warabite.mp4
青森ねぶたのお囃子の音を聞きたくて 本資料をスライド動画にしてBGMに入れています

蕨手刀に思いを寄せて　NHK 歴史探偵「日本の刀剣」視聴記録 & 資料収集

添付　蕨手刀を手に戦った東北の蝦夷に思いを寄せて　古代東北の和鉄の道資料整理

R0409warabiteweb.pdf　2022.8.20. Mutsu Nakanishi

4月20日（水）NHK 総合　夜10時放送　歴史探偵「日本の刀剣」が放送され、
謎の多い古代刀・蕨手刀の科学と調査から日本刀の作刀方法や日本刀のルーツに迫り、また、その後の個性豊かな刀匠たちの名刀も続々登場、妖刀村正伝説の真相にも迫り、意外な真実も。
そして、江戸時代後期、日本刀の作刀に一大変革をもたらした知られざる刀工・水心子正秀の偉業も。
古代から現代までの「刀剣」の歴史をたどりながら　日本人と刀剣の切っても切れない関係を多少漫画チックな面もあるが、謎ばかりが浮き彫りにされてきた「日本の刀剣」をわかりやすくまとめて　概説してくれた番組でした。

NHK　歴史探偵 2022年4月20日（水）午後10時～［NHK 総合］
「日本の刀剣」　古代から現代までの「刀剣」の歴史を調査！視聴要旨

古代刀と蕨手刀

飛鳥時代～奈良時代～平安時代初期に作られていた古代の刀剣。
群馬県の大宮蕨鼓神社では、およそ1300年前の蕨手刀が保存されている。
草木をなぎ倒したり動物をさばく目的で作られたと考えられている。
また、群馬では東日本最古の製鉄遺構も発見されている。
このことからも、群馬は古代において東日本の先進技術が集まっていた地域ではないかと考えられている。
蕨手刀は後の日本等に影響を与えたと考えられている。
しかし、その製造方法は謎に包まれている。
X線で蕨手刀の内部構造を調査したところ折り返し鍛錬されていない刀剣だった。

日本刀

個性豊かな名刀の数々　福岡一文字派、粟田口派、青江派、長船派、来派

妖刀村正伝説

家康の祖父が殺されたり、家康の父が襲われたり、家康の息子が切腹したり…
これら徳川家の不幸にことごとく「村正」の刀剣が使われていたことから、
家康は村正を捨てさせた…という伝説。
しかし、その一方で実際には家康は村正を保有していたとも伝えられている。
八代将軍・吉宗は家康を高く評価したことから、妖刀村正伝説は都合が良かった。

刀鍛冶 水心子の挑戦

刀鍛冶 水心子正秀の刀剣は大人気だった。
そんな水心子は流行りの華やかな刀作りをやめ、本来あるべき古（いにしえ）の刀を作ることを志した。
水心子は多くの弟子たちに技を教え、広まっていった。

とりわけ興味津々で視聴したのは東北蝦夷が手にして、征夷大将軍　坂上田村麻呂を悩ました武器「蕨手刀」
それまでの古代刀にはない「撃斬力」と「利便性」に刀の大変革を巻き起こし、現在までにも続く日本刀のルーツといわれる謎多き古代刀。
私の製鉄遺跡探訪問記「和鉄の道」の東北の項にも何度も掲載した謎多き東北の鉄。
また、日本の古代の製鉄技術・作刀技術についても、しっかり頭整理の資料に整理まとめをしようと。
これを機会に謎の蕨手刀・東北の鉄の資料をもう一度調べて、新しい資料も掲載しようとインターネットの検索で資料探しをして、製鉄遺跡探訪問記「和鉄の道」の東北の鉄　並びに　日本の古代の製鉄技術・作刀技術　関係の資料を加えて、頭の整理資料にまとめて、下記添付しました。

≪ 蕨手刀を手に戦った東北の蝦夷に思いを寄せて　古代東北の和鉄の道　資料整理 ≫
インターネット検索で見つけた新しい資料文献を　NHK 歴史探偵「日本の刀剣」視聴記録と共に
東北の和鉄の道資料整理として　概要を付けて整理添付しました

2022.8.20.　Mutsu Nakanishi

1. 視聴記録作成の初めに　ー NHK 歴史探偵「日本の刀剣」蕨手刀に思いを寄せて ー

私の一番の興味は平安時代８世紀半ばから９世紀　東北の蝦夷たちが手にした「蕨手刀」
反りのある日本刀のルーツといわれ、いまだ未開と思われた蝦夷たちが大和政権に対抗した原動力となった武器 小ぶりの蕨手刀。
手にした「蕨手刀」のほとんどは東北の在地で鉄素材から刀に製作されたと思われるが、いまだ謎。
中央大和政権の兵士たちが持つ重く扱いにくい直刀に対抗する「斬る/払う/突く」小回りの利く騎乗の武器の威力に数の上でははるかに勝る蝦夷討伐軍は大苦戦。蝦夷が手にする「蕨手刀」の威力が知れ渡たる。
そのルーツは東国で「道具」として生まれた鉄器といわれるが、諸説あり、よくわかっていない。

大和を中心とした日本の国造りが進む中で、大陸・朝鮮半島から鉄素材や鉄器が輸入されはじめ、大陸・朝鮮半島との交流が進む中で、最大の交易品となる一方、渡来の工人と共に西日本で製鉄が始まるのが５世紀後半。　威信財から武器・道具へと製鉄技術の進歩と共に、日本の隅々まで鉄器が広がってゆく。
この間日本に豊富にある「砂鉄」を製鉄原料とする固有の箱型炉が編み出され、製鉄炉の大型化など製鉄技術 & 鉄器加工技術の進歩による鉄素材の品質の多様化・量産体制が整えられてゆく。
そして、大和政権の中央集権律令国家体制の確立と国土開発大がさらなる用途拡大をもたらし、
日本の隅々まで　鉄文化が花開く奈良・平安時代へ。まだ在地では 小規模小生産の製鉄しかできぬ時代、
東国から東北の蝦夷たちも次々と中央集権体制に組込まれてゆく。
この「まつろわぬ人々」蝦夷たちが、中央には見られぬ強力な武器「蕨手刀」を編み出して対抗した。
まだ、よくわからぬ蝦夷たちの製鉄・鉄器生産技術がどう解き明かされるのか? 興味津々で視聴しました。

もう東北に通いだして約 50 年をすぎるが、東北の人たちの心情に思いを巡らす。
京都清水寺は蝦夷征伐の征夷大将軍坂上田村麻呂が建立した寺で、清水の舞台のすぐ下の境内に
東北蝦夷の族長アテルイ・モレの顕彰碑がある。
征夷大将軍として東北の蝦夷と戦火を交えた坂上田村麻呂は夷の族長アテルイと副将モレこそ
東北経営に最も力を発揮してくれると信じ、ふたりの助命を嘆願する。
しかし、願いは聞き入れられず、二人は河内で斬首された。
共に平和を希求し、人々の血を流すことを避けようとした坂上田村麻呂とアテルイとモレ。
田村麻呂　自らの思いを込めて，創建した京都清水寺。　私には思い入れもひとしお。
この精神は、現代の東北の人々にもしっかりとうけつがれているといわれる。
東北人はこの二人に強く心を惹かれ、北上市の市民憲章には
「 あの高嶺 鬼住む誇り その瀬音 久遠の賛歌 この大地 燃えたついのち ここは北上 」 と誇らしく歌う。

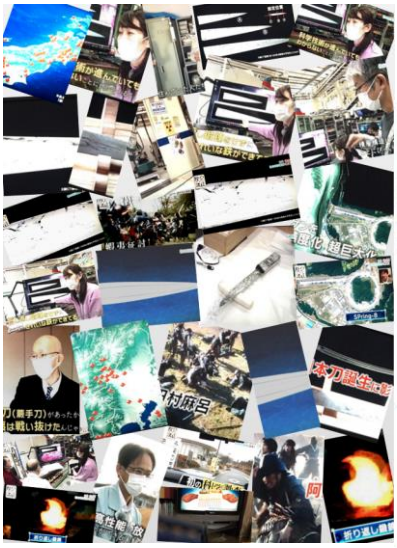
断片的には何度も「和鉄の道」に東北の鉄の訪問記を掲載してきましたが、
この番組で　蝦夷の手にする「蕨手刀」に出会って、最新の資料にも目を通して整理せねばと
「蕨手刀」視聴記録と共に　今回インターネット検索で見つけた資料から　いつも私にはあやふやだった
下記項目の資料を読み返して　添付収蔵しました。
私にとっては　東国・東北の古代の和鉄の道　目に留まった整理の資料。　ご興味があれば・・・・
◎ 東国・東北の鉄と蕨手刀　◎ 古代製鉄&鍛冶のプロセス技術　◎　日本刀の作刀プロセス
最近の資料チェックを始めました。　　2022.8.20.Mutsu Nakanishi

2. 日本刀の源流　蕨手刀

東北蝦夷が手にして征夷軍とたたかった蕨手刀　そのルーツは東国　今の群馬県

古代刀と蕨手刀

飛鳥時代～奈良時代～平安時代初期に作られていた古代の刀剣。
群馬県の大宮蕨鼓神社では、およそ1300年前の蕨手刀が保存されている。
草木をなぎ倒したり動物をさばく目的で作られたと考えられている。
また、群馬では東日本最古の製鉄遺構も発見されている。
このことからも、群馬は古代において東日本の先進技術が集まっていた
地域ではないかと考えられている。
蕨手刀は後の日本等に影響を与えたと考えられている。
しかし、その製造方法は謎に包まれている。
x線で蕨手刀の内部構造を調査したところ折り返し鍛錬されていない刀剣だった。



古代　謎の刀「蕨手刀」初の科学調査に密着

Spring 8 放射光照射による断面解析に用いられた東吾妻町　大宮巌鼓(いわつみ)神社 蕨手刀

「蕨手刀」

刀剣と言えば 日本刀を連想するが、実際は日本で日本刀が登場したのは平安末頃からで、それ以前には日本刀とは異なる古代刀が存在している。蕨手刀は古墳時代末期から平安初期　主に８－９世紀の古代刀の一種。

その源流は明らかでないが、日本刀の前身となったのではないかとされている。

柄頭が屈曲して，さわらびの巻いた形に似ているのでこの名がある。

鉄製で刀身と茎は共作り。全長 50cm 内外のものが多い。刀身は幅広く，簡素な作りである。

概して古墳の副葬品として東日本からの出土例が多いが，伝世品が正倉院宝物にある。

初期の蕨手刀は直刀であったが、後に柄、さらに刀身に反りを持つようになる。直刀のように突くことを目的としたものではなく、打ち下ろして切るという、後の打刀の始原をなすものであると考えられている。

８世紀半ば　数的に劣る東北の蝦夷が騎馬と共に、蕨手刀を手にして、討伐軍を苦しめた刀でもある。

番組では群馬の蕨手刀を保有している神社を訪問して現品を確認しているが、かなり太めの片刃の特徴で、柄は手で持ちやすいようになっている。そもそもは山刀や鉈として使用されていたのではと言う。
古代蝦夷の東北と共に、東国の群馬周辺でも　数多く見つかっている蕨手刀。
元々馬の産地であったこの地には高い技術を持った渡来人が訪れていたという。
またこの地域には製鉄炉の遺跡まで残っているという。
蕨手刀の分布は東国・東北に偏在している。
古い蕨手刀などの先進技術が馬と共にやってきた渡来人によってもたらされたといい、東国群馬県地域が蕨手刀のルーツとみられている。東国・東北と共に馬産地信州からも蕨手刀が出土している。

その後、この蕨手刀は蝦夷に伝わって武器としての進化を遂げたという。
この刀を持っていたことで、蝦夷は坂上田村麻呂などの蝦夷征討軍を苦しめることができたのだという。

■　蝦夷が手にした蕨手刀

この蕨手刀は蝦夷に伝わって武器としての進化を遂げたという。この刀を持っていたことで、
蝦夷は坂上田村麻呂などの蝦夷征討軍を苦しめることができたのだという。

蝦夷の蕨手刀の分布
蝦内政権と戦った蝦夷国アテルイの武器
蕨手刀の分布

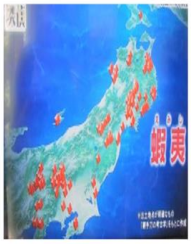
騎馬部隊の存在
阿弖流為が、何故二次蝦夷征伐で朝廷軍を蹴散らせたか？
圧倒的な騎馬戦力が有ったからではないかと。
それは馬の捕獲数で裏付け可能。
蝦夷３８年戦争により騎馬部隊による斬撃の有効性が立証されたとしたら？
一機にその方向で戦略物資たる、刀太刀の構造や馬の確保の手段もやるだろう。やらねば律令制の完成は無いのだから。
蕨手刀の能力を最大限に引き出すのは、
騎乗で片手で振り回せる手軽さと、刀片刃で柄が刀身に対して斜めになる「斬撃性」だった。
それを極限迄高めたのが日本刀。そんな背景を持つ。

江釣子古墳群　江釣子古墳群は五条丸・猫谷地・八幡・長沼の各古墳群からなる、北東北の最大規模の古墳群
直径6~15メートルの円墳が120基以上あり、勾玉、切子玉、蕨手刀、直刀、馬具などがたくさん出土

猫谷地1号墳

蕨手刀・鉄鏃・馬具

蝦内政権と戦った蝦夷国アテルイの武器
蕨手刀の分布



■　エミシの38年戦争　774-811

714年～811年までの38年間、北上川を中心に朝廷vs蝦夷の大戦争

蝦夷の３８年戦争前夜　既に蝦夷討伐の拠点多賀城がある中、蝦夷の社会では地域首長を軸にした同盟を結んでいたが、
朝廷へのエミシの協力も問題無かった。だが、個々の部族に対する朝廷の扱いの違いに疑問を持ち始める長が出て来て、
774年に調停に疑問を抱く蝦夷が蜂起。朝廷側協力エミシ vs 非協力勢力の争いに発展し、
蝦夷の３８年戦争と呼ばれる蝦夷と朝廷征夷軍の大戦争。　朝廷征夷軍は蝦夷が手にする「蕨手刀」の威力に苦しめられた。

◎ 788年、「胆沢合戦」
蝦夷の拠点 胆沢攻略に絞り　約５万の第一次討伐軍派遣、
北上川の東岸、西岸に約２千づつ軍を分け北上し、巣伏村で 、阿弖流為が率いる蝦夷の部族連合軍と激突。
蝦夷連合の族長　阿弖流為は陽動作戦とゲリラ戦を展開し、朝廷精鋭部隊を撃破。その結果として、朝廷軍５万を撃退。
史上で言う「胆沢合戦」。阿弖流為伝説として続日本記に記載されている。

◎ 794年　約１０万の第二次蝦夷征伐群の派遣　この時　坂上田村麻呂が副将軍として参加。
半年後の報告では、斬首450、捕虜150、馬捕獲85（国家年間貢上数105）等々
水沢市の２地区の遺跡の面積80%が焼失痕を残すという大戦果、それでも　蝦夷の拠点胆沢を落とすに至らず。

◎ 801年　間登入れず　坂上田村麻呂を征夷大将軍として　第三次討伐軍派遣
但しこの遠征には 詳しい経過を記した記録がなく　史書に「夷賊討伐」と記されているのみで詳細判らず。
実際には更に北の久慈辺りまで派兵出来ているので、ほぼ制圧完了したと推定される。
しかし、まだ阿弖流為は倒せては居ない。事実上この第三次討伐で、蝦夷連行軍は　かなりのダメージを受けたと推定される

◎ 802年、朝廷の東北経営の拠点　鎮守府として胆沢城築城
造営中の巨大城柵を見、万策尽きた阿弖流為は5百の兵を従え投降、ここに38年戦争終結…
田村麻呂は都へ阿弖流為らを送る際、助命嘆願し阿弖流為に協力させようとしたが、公家らはその力を恐れ斬刑。
鎮守府が国府がある多賀城から胆沢城に移転した正確な年は不明だが、早ければ造設と同時の802年、
遅ければいったん志波城におかれたとみて812年となる。
また、蝦夷の部族は、ゲリラ戦を展開するも、順次朝廷の支配下に。
捕虜となった蝦夷たちは俘囚として日本各地に数多く送られた。

◎ 811年末　３８戦争の終結
嵯峨天皇は811年12月31日　詔を発し、征夷将軍文室綿麻呂に従三位、副将軍佐伯耳麻呂に正五位など軍功者に官位授与
812年1月28日）、征夷将軍綿麻呂は「今官軍一挙して、殆ど遺るもの無し」と述べ、陸奥国の鎮兵3800人を段階的に1000人にまで削減。
軍団兵士を四団4000人から二団2000人に削減する大幅な軍備縮小の実施を奏上。

「宝亀五年より当年に至るまで、殆て三十八歳、辺境兵動きて、警口絶ゆること無し」と述べて
38年におよぶ征夷の時代が終わったことを宣言する

巣伏古戦場跡（岩手県奥州市）
左:「古代の戦いと城柵位置図」右:「巣伏（すぶし）の戦い」の想定図
延暦8年（789年）、巣伏村（現水沢市辺り）で、征東将軍紀古佐美（きのこさみ）率いる 朝廷軍と阿弖流為(アテルイ)率いるエミシ（蝦夷）軍が戦い、朝廷軍が大敗するという事態が起こった

■古代の戦いと城柵位置図

戦場の拡大図/周辺の遺跡は古代のエミシの拠点であったとされる/角塚古墳や中半入遺跡もエミシとの関連が想定されるようだ

現状考えられている日本刀の起源「直刀」から「反りのある刀」へ

馬上から片手で切り裂く蕨手刀：蕨手刀の威力を見せつけた東北蝦夷の38年戦争

蕨手刀 → 毛抜型蕨手刀(柄に透かし穴付き) → 毛抜型刀「舞草刀」(蕨手の装飾が消える)へ

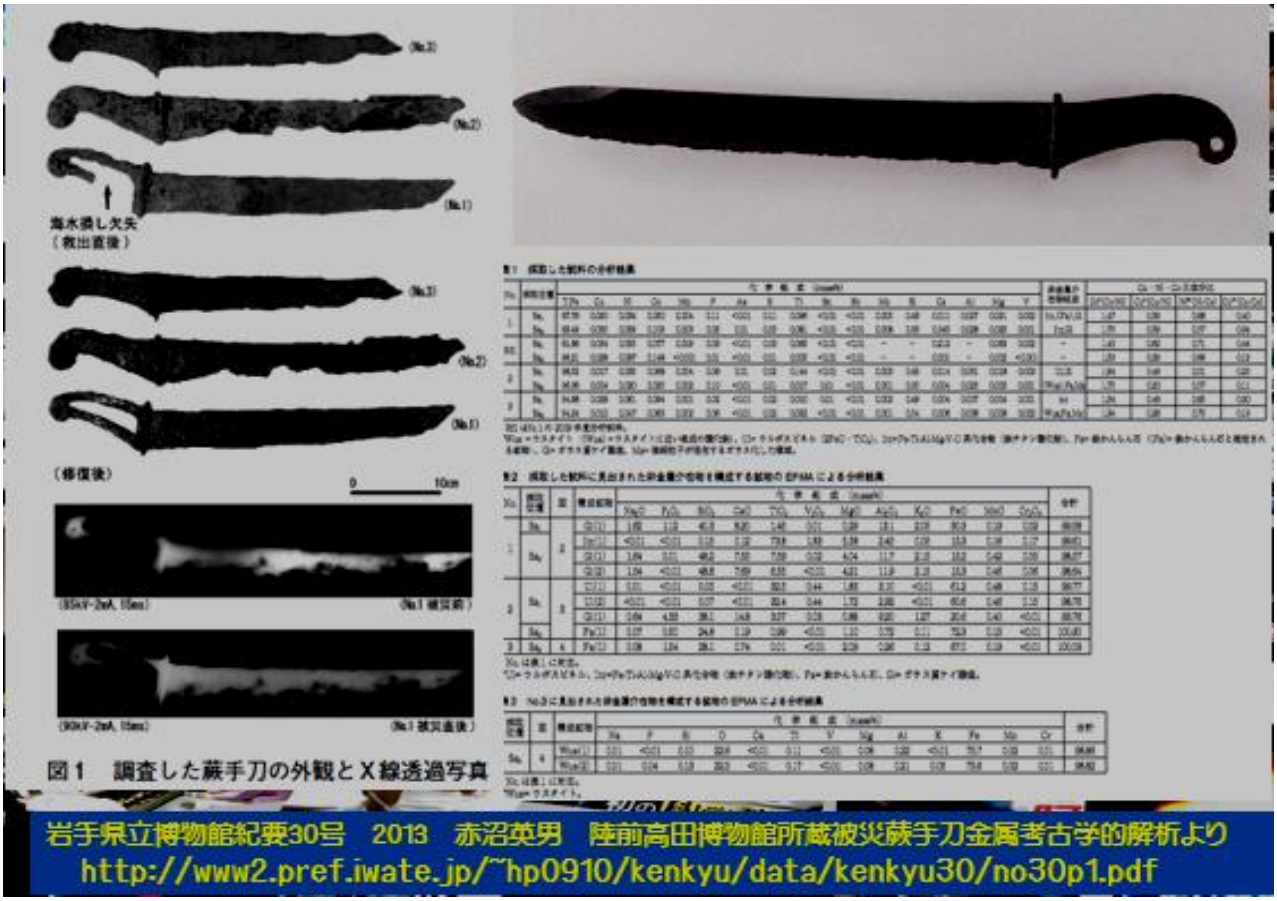
西国の刀工達がさらに、刀身を伸ばして、毛抜太刀へ発展させ、日本刀へ至ると言う。
歴史的事情と重ねると蕨手刀を手にして大和朝廷軍と戦った東北蝦夷の３８年戦争と重なる
38年戦争の終結が９世紀頭つまり蕨手刀から日本刀への改過渡戦争終結に始まる

騎馬部隊の存在･
阿弖流為が、何故一次蝦夷征伐で朝廷軍を蹴散らせた
圧倒的な騎馬戦力が有ったからではないかと。
それは馬の捕獲数で裏付け可能。
阿弖流為の乱により、騎馬部隊による斬撃の有効性が立証されたとしたら？
一気にその方向で戦略物資たる、太刀の構造や馬の確保の見直しもやるだろう。
やらねば、律令制の完成は無いのだから。

蕨手刀の能力を最大限に引き出すのは、
騎乗で片手で振り回せる手軽さと、片刃で柄が刀身に対し湾曲する「斬撃性」だった。
それを極限迄高めたのが日本刀。そんな背景を持つ。

岩手県立博物館紀要 30 号　2013　赤沼英男　陸前高田博物館所蔵被災蕨手刀金属考古学的解析より

http://www2.pref.iwate.jp/~hp0910/kenkyu/data/kenkyu30/no30p1.pdf



貴重な古代蕨手刀の出土品　切り出し加工したサンプルを調べることができない課題がある。

この赤沼英男　陸前高田博物館所蔵被災蕨手刀金属考古学的解析も貴重なデーターである

蕨手刀の鉄素材の来歴　まだクリアーになっていない

今回も蕨手刀に関連する製鉄遺跡・鉄遺物報告いくつか読みましたが　結論はブラックボックス

蝦夷が手にする蕨手刀が製作される８世紀後半から９世紀頃
製鉄が始まる５世紀後半から　この時期日本のたたら製鉄は画期を迎える。
　数多くの渡来の工人が日本にやってきて、製鉄技術が安定期に入り、
　鉄素材の量産へ進む時期に当たる。
　箱型炉による大型製鉄炉による量産・足踏み鞴送風による高温操業がはじまり、東国・東北では竪型炉・箱型炉が並立する時代に。
　西日本・東国・東北それぞれが影響を受けながら、新しい取組みが始まる
　製鉄原料も鉄鉱石・砂鉄原料と選択が広がり、鉄素材も多様化する時代。

蕨手刀の鉄素材もこの時期　複雑である

1.船載鉄素材　Cu+(P)
2.鉄鉱石原料による鉄素材　不純物にTiを含まず、Cu+(P) を検出
3.砂鉄原料による鉄素材　　不純物にTiを検出し、Cu を含まぬ
4.鉄鉱石原料高温高炭素製鉄素材＋砂鉄添加による精錬脱炭処理　Ti，Cu+(P)を検出

少ない蕨手刀の成分分析・製鉄遺跡数等での プロセス確定は厳しい。
研究者によってまだ意見が分かれているようだ。
蝦夷への蕨手刀の製作鉄素材がどこから供給されたのだろうか‥‥
また蝦夷は大量の蕨手刀政策の自前の製鉄工房を保有していたのだろか・・・
興味津々である。

ずっと頭にある日本たたら製鉄の量産に欠かせぬ砂鉄利用の謎
砂鉄の利用技術は海を渡ってきたのだろうか????
そして、高温操業に欠かせぬ足ふみ鞴の適用時期との重なりとそのルーツも。
この2つの謎が「蕨手刀」にも顔を出していることを初めて知りました。
まだまだ面白い日本のたたら製鉄です
蕨手刀からこの謎が解くてがかりが生まれるかも‥‥と　　2022.8.16. Mutsu Nakanishi

---

3. 古代　謎の刀「蕨手刀」初の科学調査に密着

群馬県東吾妻町大宮巌鼓(いわつつみ)神社の蕨手刀の Spring 8　放射光照射による断面解析

今回 NHK の番組では群馬県から出土した蕨手刀について、
SPring-8 の放射光照射による断面解析に同行。
断面の調査の結果、蕨手刀の鉄には不純物が少ないこと、
さらに日本刀のような折り返し鍛錬をして、蕨手刀を製造していないと分かり、その結果にびっくりしたと。
通常の日本刀の作刀では折り返し鍛錬によって不純物を減らすが、これをせずしてどうやって不純物の少ない刀を作ったのかは謎と言う。

■ 蕨手刀の Spring 8　放射光照射による断面解析結果

大宮巌鼓神社 蕨手刀の放射光(佐用 スプリング8)照射による断面解析画像

折り返し鍛錬で見える積層構造が見えない

一つの鉄塊を折り返し鍛錬せず、そのまま鍛錬成形したもの。介在物の少ない清浄な一つの鉄塊から作られた蕨手刀であることにビックリ

馬産地として馬具製作のため、清浄な鉄素材製造の製鉄・鍛冶技術をすでに蝦夷たちも持っていたのでは…・

介在物が蕨手刀内部で線・層状に延びていないことから、折り返し鍛造なしの鉄素材から蕨手刀?
８・９世紀には在地の鍛冶技術も官営の製鉄所に近い精錬鍛冶技術を有しているとの話もあり、
清浄な鉄素材が在地にもあったとも考えられる。
ふと　頭に浮かんだのは馬の産地であること。　鉄製馬具と蕨手刀製作技術の結びつき。
騎馬 棒状素材を延ばして作る轡等の繋ぎ接合の強度に介在物は極めて重要。清浄な鉄素材が必要。
馬具製作技術として、清浄な鉄素材を作る精錬鍛冶鍛冶技術の習得も進んでいたにちがいないと・・・。
思いつきではありますが・・…　　２０２２.８.１６.視聴記録をまとめつつ　Mutsu Nakanishi

東北蝦夷が手にして、征夷大将軍　坂上田村麻呂を悩ました武器「蕨手刀」。興味津々での視聴でした。
それまでの古代刀にはない「撃斬力」と「利便性」に刀の大変革を巻き起こし、現在までにも続く日本刀のルーツといわれる謎多き古代刀。また、謎の多い古代刀・蕨手刀の科学と調査から日本刀の作刀方法や日本刀のルーツの謎がまた一つ。まだまだ知らぬことが多い古代の和鉄の道と。また　久し振りに東北の鉄に思いを馳せることができ、あれやこれや思い出しながらの視聴でした。
番組はこのあと、その後の個性豊かな刀匠たちの名刀も続々登場、妖刀村正伝説の真相にも迫る話題や江戸時代後期、日本刀の作刀に一大変革をもたらした知られざる刀工・水心子正秀の偉業も。
日本人と刀剣の切っても切れない関係を多少漫画チックな描き方もありましたが従来は謎ばかりが浮き彫りにされてきた「日本の刀剣」について、古代から現代までの「刀剣」の歴史をたどりながら　時代を区切って　その時代を代表するエピソードからのわかりやすい概説。うれしい番組。未整理のまま頭に詰め込んだママだった「日本刀剣の歴史」が自分なりにすっきり。

私の製鉄遺跡探訪問記「和鉄の道」に何度も掲載した謎多き東北の鉄。そして、日本の古代の製鉄技術・作刀技術も。
しっかりと頭整理して整理資料にまとめねばと番組視聴を機会に謎の蕨手刀・東北の鉄の資料をもう一度調べて、
新しい資料も加えようとインターネット検索での資料探しを始めています。
　まだまだ一部ですが、今回の番組関連として　インターネットの検索チェックで新たに見つけた資料などを
　私の頭の整理資料としてファイル化して下記添付しました。

≪ 蕨手刀を手に戦った東北の蝦夷に思いを寄せて　古代東北の和鉄の道　資料整理 ≫
インターネット検索で目に留まった資料文献　　概要を付けて整理添付しました
私にとっては　東国・東北の古代の和鉄の道　並びにたたら製鉄の整理の資料です。
◎ 東国・東北の鉄と蕨手刀　◎ 古代製鉄 & 鍛冶のプロセス技術　◎ 日本刀の作刀プロセス

清水山将軍塚が見下ろす清水寺の舞台のすぐ下　緑に包まれて　蝦夷の族長　阿弖流為と母禮の顕彰碑

参考　蝦夷の雄「アテルイ」の痕跡「京都清水寺・将軍塚」
https://infokkkna2.com/ironroad2/2022htm/iron18/RO409warabitewebAterui.pdf

８月２１日　久し振りに　阿弖流為/母禮の顕彰碑に出会ってきました。
平和に尽くした坂上田村麻呂と蝦夷の族長　阿弖流為に思いを馳せています
大きな時代の転換期の今　みんな地球人　希望にみちた穏やかな暮らしを祈りました

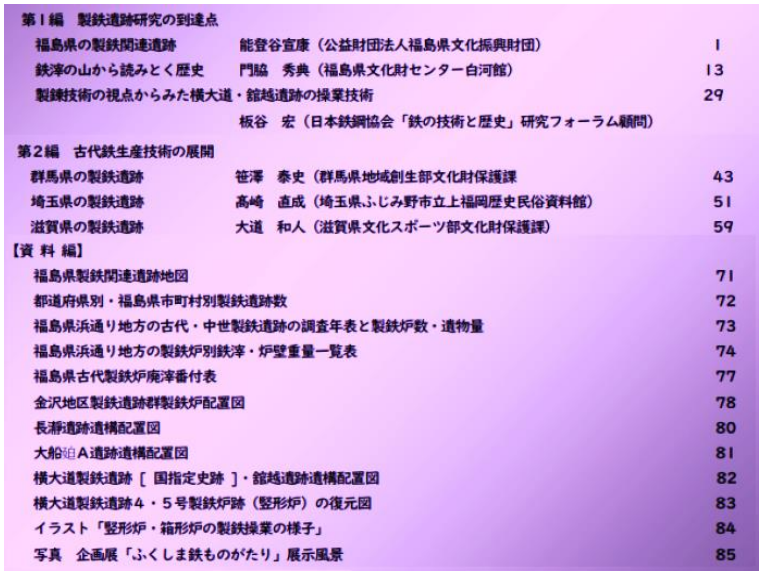
2022.8.20.Mutsu Nakanishi

4.　蕨手刀　NHK 歴史探偵「日本の刀剣」視聴　関連資料リスト

NHK の蕨手刀番組を視聴したのを機会にインターネット検索等で調べた新しい知見等注目した関連資料整理

■　福島県文化財センター白川館　シンポ「鉄の道をたどる」予稿集 2020. 7. 23

https://www.fcp.or.jp/mahoron/pdf/2020/2020_tetu_yokoh%20(1).pdf

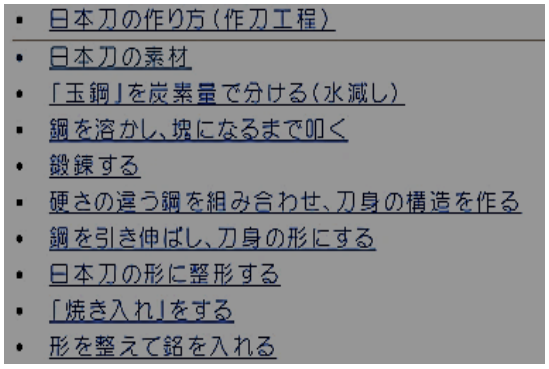

第Ⅰ編　製鉄遺跡研究の到達点
福島県の製鉄関連遺跡　能登谷宣康（公益財団法人福島県文化振興財団）　1
鉄滓の山から読みとく歴史　門脇　秀典（福島県文化財センター白河館）　13
製鉄技術の視点からみた横大道・舘越遺跡の操業技術　29
板谷　宏（日本鉄鋼協会「鉄の技術と歴史」研究フォーラム顧問）
第２編　古代鉄生産技術の展開
群馬県の製鉄遺跡　笹澤　泰史（群馬県地域創生部文化財保護課　43
埼玉県の製鉄遺跡　髙崎　直成（埼玉県ふじみ野市立上福岡歴史民俗資料館）　51
滋賀県の製鉄遺跡　大道　和人（滋賀県文化スポーツ部文化財保護課）　59
【資料編】
福島県製鉄関連遺跡地図　71
都道府県別・福島県市町村別製鉄遺跡数　72
福島県浜通り地方の古代・中世製鉄遺跡の調査年表と製鉄炉数・遺物量　73
福島県浜通り地方の製鉄炉別鉄滓・炉壁重量一覧表　74
福島県古代製鉄炉廃滓番付表　77
金沢地区製鉄遺跡群製鉄炉配置図　78
長瀞遺跡遺構配置図　80
大船迫Ａ遺跡遺構配置図　81
横大道製鉄遺跡［国指定史跡］・舘越遺跡遺構配置図　82
横大道製鉄遺跡４・５号製鉄炉跡（竪形炉）の復元図　83
イラスト「竪形炉・箱形炉の製鉄操業の様子」　84
写真　企画展「ふくしま鉄ものがたり」展示風景　85

豊富な製鉄原料があり、大和政権の蝦夷討伐の拠点となった福島の大規模な官営製鉄。
そして　古代東国の鉄文化の先進地　いち早く西国の箱型炉を取り入れ、蕨手刀を生んだ埼玉・群馬の古代製鉄。　当時大和政権の中で、大規模量産製鉄の中心的役割を果たした滋賀県瀬田丘陵の製鉄群。
鉄文化を育み、相互に関係しながらたたら製鉄の先進地役割を果たしてきた地域。
日本のたたら製鉄が大きく展開するこの時期のレビューがまとめて眺めることができました。
この時代 大型量産炉を可能とする足ふみ鞴が装着され始める。
どんな展開になっているのか　興味津々ですが、結論は先か?

■　刀剣ワールド　名古屋刀剣ミュージアム編

日本刀の作り方「日本刀の作り方（作刀方法と鍛錬）」

資料と映像　https://www.touken-world.jp/tips/11767/


日本刀の作り方（作刀工程）
日本刀の素材
「玉鋼」を炭素量で分ける（水減し）
鋼を溶かし、塊になるまで叩く
鍛錬する
硬さの違う鋼を組み合わせ、刀身の構造を作る
鋼を引き伸ばし、刀身の形にする
日本刀の形に整形する
「焼き入れ」をする
形を整えて銘を入れる

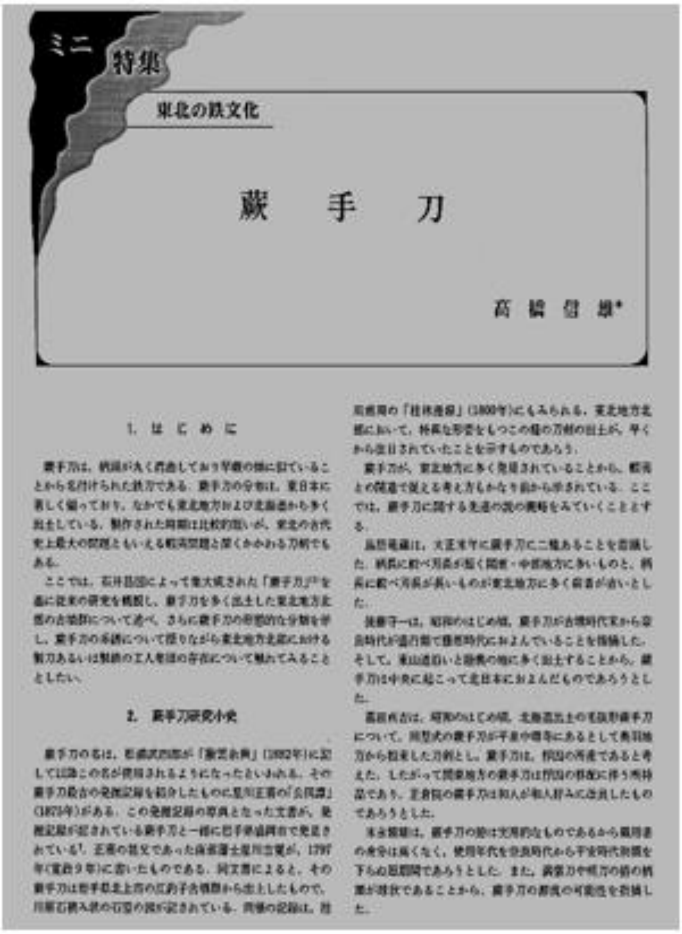
https://youtu.be/Z_EYvrgCGYY 7:04

日本刀の作り方（作刀方法と鍛錬）関連YouTube動画

https://youtu.be/crS1xc6qu_c　3:41　https://youtu.be/CgaUba0aSWQ　13:26

■【参考文献】東北の鉄文化「蕨手刀」日本金属学会　まてりあ 第34巻 第10号(1995)

https://www.jstage.jst.go.jp/article/materia1994/34/10/34_10_1144/_pdf


ミニ特集　東北の鉄文化

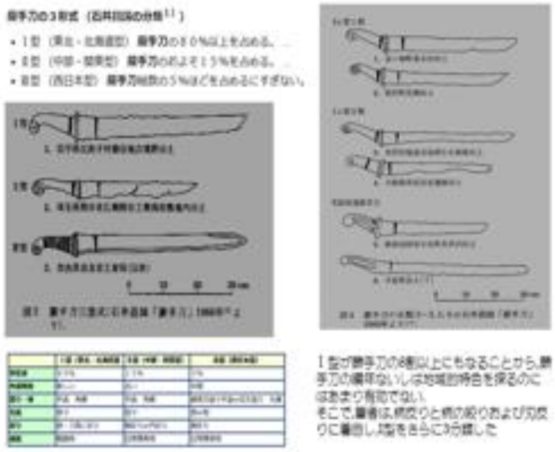
蕨　手　刀

高橋信雄*

1. はじめに

2. 蕨手刀研究小史

1. はじめに
2. 蕨手刀研究小史
3. 蕨手刀の分布と出土遺構
4. 蕨手刀の形態分類
5.蕨手刀の系譜
6. おわりに



蕨手刀の３形式（石井昌国の分類[1]）

- Ⅰ型（東北・北海道型）蕨手刀の８０%以上を占める。…
- Ⅱ型（中部・関東型）蕨手刀のおよそ１５%を占める。…
- Ⅲ型（西日本型）蕨手刀総数の５%ほどを占めるにすぎない。

図2　蕨手刀三型式(石井昌国「蕨手刀」1966年(1)より).

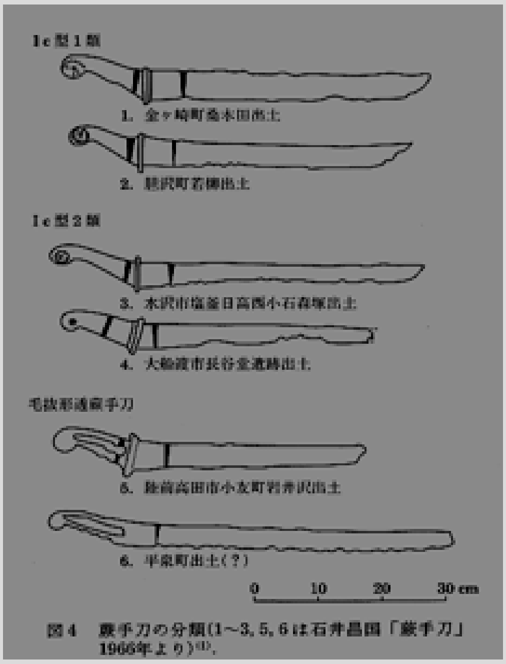


図4　蕨手刀の分類(1〜3, 5, 6は石井昌国「蕨手刀」1966年より)(1).

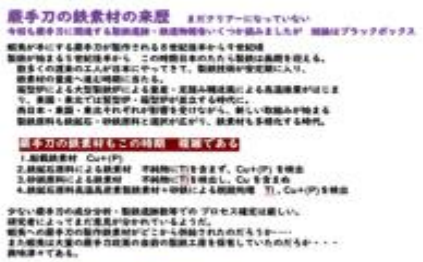
	Ⅰ型（東北・北海道型）	Ⅱ型（中部・関東型）	Ⅲ型（西日本型）
存在率	８０%	１５%	５%
作成時期	新しい	古い	中間
造り・棟	平造　角棟	平造　角棟	鋒両刃造で平造or切刃造り　丸棟
刃長	長寸	短寸	長or短
反り	柄・刀身に反り	無反りor内反り	無反り
機能	戦闘用	日常携帯用	日常携帯用

Ⅰ型が蕨手刀の8割以上にもなることから,蕨手刀の編年ないしは地域的特色を探るのにはあまり有効でない.
そこで,筆者は,柄反りと柄の絞りおよび刃反りに着目し,Ⅰ型をさらに3分類した

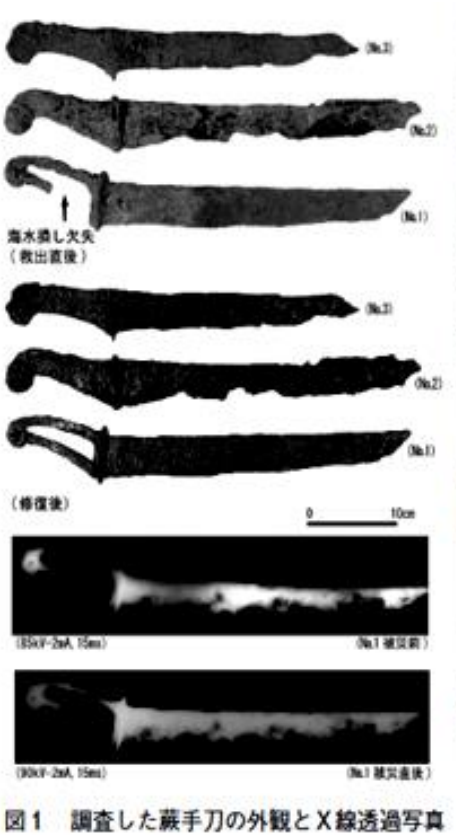
参考資料　　東国・東北　古代の鉄器・蕨手刀の展開

赤沼英男氏の蕨手刀の金属考古学的解析　研究論文

1. 陸前高田博物館所蔵被災蕨手刀金属考古学的解析　岩手県立博物館紀要 30 号　2013
   http://www2.pref.iwate.jp/~hp0910/kenkyu/data/kenkyu30/no30p1.pdf
2. 東北地方北部古代・中世の鉄・鉄器生産と流通　赤沼英男氏　博士論文 1992
   https://core.ac.uk/download/pdf/286928208.pdf



この研究論文の中でも、蝦夷が手にした蕨手刀や鉄器の地金の分析研究から
多様な来歴ルーツを持つ地金が使われている可能性が報告されている。
３８年戦争の時代　砂鉄系＆鉄鉱石原料系製鉄 そしてその鉄素材からの蕨手刀の
製作場所はどこだったのだろうか・・・
どんな来歴を持つのか　まだ良くわからぬ課題　興味深々です



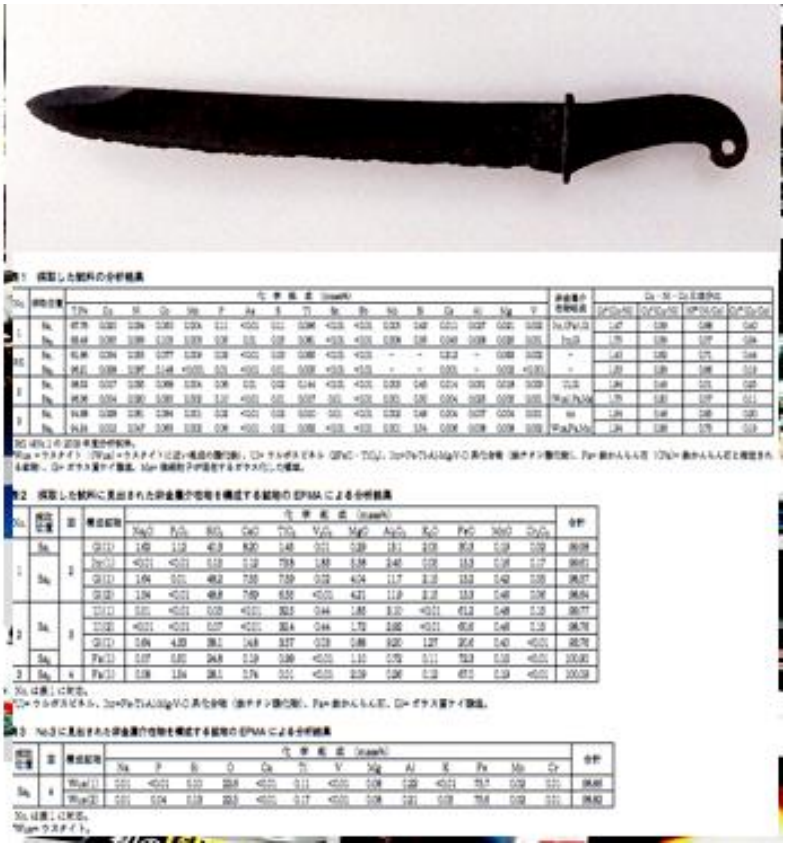


図１　調査した蕨手刀の外観とＸ線透過写真

岩手県立博物館紀要 30 号　2013　赤沼英男　陸前高田博物館所蔵被災蕨手刀
http://www2.pref.iwate.jp/~hp0910/kenkyu/data/kenkyu30/no30p1.pdf

広島大学図書館所蔵論文　広島史学研究会　史学研究 No. 228　2000. 6.

■ 下向井龍彦氏　武士形成における俘囚の役割　　蕨手刀から日本刀への発展/国家と軍制の転換に関連させて

https://ir.lib.hiroshimau.ac.jp/files/public/2/29913/20141016173143909038/SigakuKenkyu_228_1.pdf

武士形成における俘囚の役割（下向井）

武士形成における俘囚の役割

――蕨手刀から日本刀への発展／国家と軍制の転換に関連させて――

下向井　龍彦

問題の所在

図　蕨手刀から毛抜形太刀への変遷（石井(昌)－1966より）

蕨手刀から日本刀への発展の歴史やその地域性を含め、武器としての強さが具体的に論述されている。
この蕨手刀を手にした蝦夷や俘囚として国に組み込まれ、戦さに挑んだ俘囚たちの姿と役割が、俘囚集団社会の分析。それらを通して、武士形成に至る軍制・社会転換への道が明らかにされた研究論文。

蝦夷が手にした「蕨手刀から日本刀への展開」の話は聞き及んでいましたが、確りとは知らず。　蕨手刀がもたらした具体的な役割・軍制・社会変革への道筋に取り組んだ研究。
知りたかった蝦夷から俘囚の世界　たたら製鉄に結び付けての視点しか知らなかった世界　大変参考になりました。

Mutsu Nakanishi 2022. 8. 18.

(5) 俘囚の戦術――蕨手刀――

機動的・ゲリラ的な騎馬個人戦術をもっとも得意としたのは、蝦夷の戦士たちであった。陸奥国現地軍は、「弓馬戦闘」では一人の蝦夷戦士に公民兵士数十人が束になっても敵わない、と舌を巻いている。天応元年（七八一）五月、第一次遠征軍は、蝦夷武装勢力の戦術について、蜂や蟻のように集まってきては挑発し、攻めたら山林に逃げ込み、放置すれば「城塞」を「侵掠」する。とりわけ伊佐西古らは、「一以当千」の英雄的戦士である、と政府に報告した。延暦八年（七八九）、第二次遠征軍は、精鋭四〇〇〇人に北上川を渡らせ蝦夷勢力指導者アテルイの本拠を一気にたたき、そのあと本隊数万を渡らせ胆沢全域を制圧する作戦を敢行した。しかし本隊の渡河は阻止され、深く侵入した精鋭は前後に敵を受けて壊滅した。機動性・計略・連携・果敢さにおいて、蝦夷騎兵は政府軍を圧倒した。

蝦夷騎兵戦術と政府軍の騎兵戦術との相違を端的に示すのが、蝦夷戦士の蕨手刀と政府軍兵士の直刀である。蕨手刀は蝦夷勢力の拠点岩手県胆沢地方にもっとも濃密に分布し、蝦夷塚と呼ばれる鎮石塚古墳から出土する。蕨手刀の名前は、柄の先が蕨の形をしているところからつけられた。その特徴は、真っ直ぐな刀身に対して柄が外側に反っている「柄反り」にある（図）。すなわち蕨手刀は、直刀ではなく彎刀である。彎刀（反り）の機能は、馬を疾駆させながら相手に斬りかかるとき、強烈な衝撃に対する反動を消し去り、弧線を描いて深く斬り込めるところにある。刀身と柄が一体の鉄柄も、焼き入れも、強烈な衝撃に耐えさせるための技法である。

騎馬個人戦は、弓矢で始まり、刀での斬り合い、組み討ちを経て、勝者が敗者の首を掻き斬ることで終了する。弓矢で相手に致命傷を与えることは困難で、すれ違いざまの、あるいは追いぬきざまの斬り合いで勝敗は決する。柄反りによって強化された斬撃力と共鉄柄の強度は、疾駆する馬上での激しい斬り合いに耐える。折れる心配はない。いっぽう政府軍の直刀の柄は細い茎（なかご）に取り付けられている。斬撃の反動を吸収できないから深く切り込めず、斬撃の衝撃で柄元から折れる心配がある。馬を疾駆させながら激しく斬り合うことは困難であろう。疾駆しながら戦える彎刀と、馬を止めないと戦えない直刀の戦術的格差は比較にならない。蝦夷騎馬戦士の強さの秘密の一つは、疾駆斬撃戦を可能にする蕨手刀にあった。

全国出土蕨手刀は三型式に大別できるという。Ⅰ型＝東北・北海道型は平作りで刀身は長く、柄・身ともに反りを持つ。全体の八二%を占める。Ⅱ型＝関東・中部型も平作りであるが、単寸で刀身は無反り。全体の一四%。Ⅲ型＝西日本型は、鎬両刃造りで、切刃造りと平造りがあり、単寸で刀身無反り、柄の反りは浅い。五%に満たない。Ⅱ型Ⅲ型は東北でも少数ながら出土している。Ⅱ型Ⅲ型が俘囚のものであるなら、関東以西で独自に発展していった型式とは考えにくい。ばらばらに配置された俘囚が広範囲の地域的共通性をもつ型式を作り上げることは不可能である。私は、右の三類型は、東北蝦夷社会ですでに存在したものと考える。Ⅰ型は激烈な実戦向きである。蝦夷本来の戦闘用の蕨手刀であろう。Ⅱ型Ⅲ型は疾駆斬撃戦術からいえば、Ⅰ型に比べ機能ははるかに劣る。日常携帯用だろう。俘囚が移配されるに当たって、関東中部方面に移配される集団には主としてⅡ型、西日本方面に移配される俘囚には主としてⅢ型が持たされたのではなかろうか。移配当時、内国では激烈な武力行使は想定されておらず、またⅠ型を所持させることを危険視したのではなかろうか。Ⅱ型Ⅲ型の携行しか認められなかった俘囚ではあるが、身につけた騎馬斬撃戦術に変わりはない。

図　蕨手刀から毛抜形太刀への変遷（石井(昌)－1966より）

https://hachinohe-city-museum.jp/wp-content/themes/hcm/images/goods/TGTsymposium.pdf

まだ大和中央政権の勢力が及ばぬ北東北八戸の蝦夷の墓
八戸丹後平古墳群が蕨手刀・直刀等数多くの鉄製品が出土

青森県丹後平古墳群出土品　重要文化財指定記念シンポジウム
改めて出自をさぐる！獅喰三累環頭大刀柄頭　資　料　集

八戸市博物館　平成３０年１０月２８日

末期古墳の出土遺物から見える交流の諸相 ・・・・・・・・・・・・・・・・・3
藤澤　敦　氏　（東北大学総合学術博物館）
丹後平古墳群出土金属器の材質と製作技法 ・・・・・・・・・・・・・・・・11
赤沼　英男　氏　（岩手県立博物館）
東アジアの古代黄銅関係品について ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・27
成瀬　正和　氏　（東北芸術工科大学）
獅喰環頭大刀と金銀装大刀の製作と流通 ・・・・・・・・・・・・・・・・・33
大谷　晃二　氏　（島根県立松江北高等学校）
附章
末期古墳を知る道標　～丹後平古墳群出土品の重要性と新知見～ ・・・・・45
横須賀　倫達　（文化庁文化財第一課考古資料部門　文化財調査官）

獅喰三累環頭大刀柄頭は、八戸市白山台にあります丹後平古墳群から、昭和61年に出土しました。丹後平古墳群は、飛鳥時代中頃から平安時代につくられた「蝦夷」の墓です。

金銀で装飾されたこのような柄頭を装着した大刀は、中国にルーツをもち、古墳時代に朝鮮半島と日本で流行したものです。獅子の顔が表現された獅喰環頭大刀の出土は東北地方初であり、三累環との組み合わせは例がないことから、大きな話題となりました。

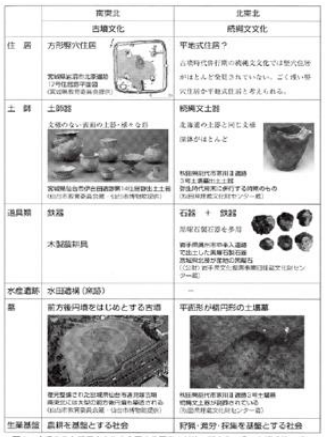
出土から30年が経ち、今年３月に柄頭を含む「丹後平古墳群出土品」が国重要文化財に指定されました。指定に先立って実施された科学分析により、黄銅という他に例のない金属を地金としていること、鍍金と象嵌を組み合わせた高度な装飾がなされていること、柄木の年代など、新たな知見が多く得られました。

しかし、この柄頭がいつどこで作られ、なぜこの八戸の地へもたらされたのか、柄頭を供えられた墓の主はどういった人物だったのか、柄頭をめぐる謎は一層深まるばかりです。

本日のシンポジウムでは、末期古墳、金属考古学、古代の黄銅製品、獅喰環頭大刀などについて、さまざまな分野の専門の先生方から御講演をいただき、最新の研究成果から獅喰をめぐる謎や八戸の古代社会について、皆様と一緒に考えたいと思いますので、よろしくお願いします。

蕨手刀の鉄素材・刀の製作にはまだまだ謎が多い。
東国との交流などまだまだよくわからぬ点が多い。

また、蝦夷たちの製鉄・鍛冶工房と蝦夷たちの経済力と流通
謎の多い蕨手刀である。



▲図１　古墳文化と続縄文文化の主要文化要素の対比　図文化の違いを模式的に示したもの。各文化のなかにも様々な変異がある。
出典：各調査報告書・後台市史考古資料編

▲図２　古墳分布域の変化とおもな続縄文文化関係遺跡および「末期古墳」
出典：[藤沢 2013]p.376、一部改変

藤澤　敦氏（東北大学総合学術博物館）末期古墳の出土遺物から見える交流の諸相より

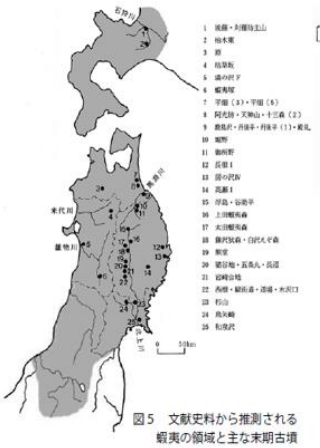


図５　文献史料から推測される蝦夷の領域と主な末期古墳

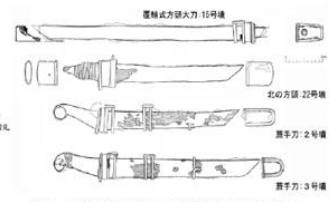


図７　丹後平古墳群出土の各種の刀（調査報告書より）

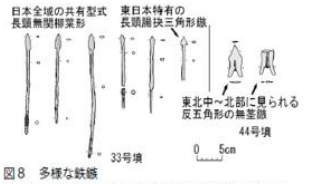


図８　多様な鉄鏃
（内山敏行 2005「鏃から見た七世紀の北日本」『北方の境界接触世界』七世紀研究会をもとに作成）

藤澤　敦氏（東北大学総合学術博物館）末期古墳の出土遺物から見える交流の諸相より

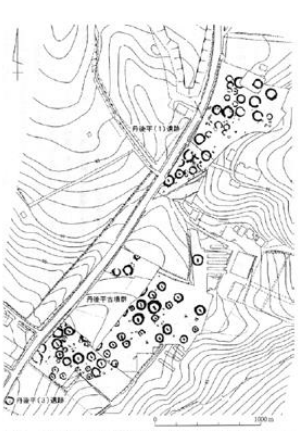


図６　青森県八戸市丹後平古墳群の分布（八戸市埋蔵文化財調査報告書第93集より、一部改変）

図９　続縄文時代末期の墓から出土した本州産鉄製品
恵庭市西島松５遺跡（北海道所収文化財センター 2002・2003）
（瀬川拓郎 2011「古代北海道の民族的世界と阿倍比羅夫遠征」『海峡と古代蝦夷』より引用）

藤澤　敦氏（東北大学総合学術博物館）末期古墳の出土遺物から見える交流の諸相より

丹後平古墳群出土金属器の材質と製作技法　岩手県立博物館　　赤沼　英男　より

表1　出土刀剣類の分析結果

No.	資料名	出土地	摘出部位	Cu・Ni・Co 三成分比 Co*	Cu*	Ni**	Cu**	非金属介在物組成	X 線CT による測定結果 短径	長径	短長径比	鋲の位置
1	直刀（方頭大刀）	青森県八戸市丹後平15 号墳主体部	Eg	0.80	0.60	1.25	0.75	no	14.0	39.0	0.36	中心
			Rg	0.75	0.46	1.33	0.61	no				
2	直刀	青森県八戸市丹後平22 号墳主体部	Eg	3.00	0.36	0.33	0.12	XT、Ma	12.5	30.2	0.41	中心より棟
			Rg	2.03	0.74	0.49	0.37	XT、XF、Ma				
3	直刀	青森県八戸市丹後平30 号墳土擴	Eg	8.67	10.0	0.12	1.15	Gl（Cu 粒）	15.0	27.0	0.56	中心より棟
			Rg	7.00	3.40	0.14	0.49	Cu 粒				
4	蕨手刀	青森県八戸市丹後平25 号墳周溝	Eg	3.03	0.94	0.33	0.31	XT、Ma	7.0	30.0	0.23	−
			Rg	3.00	0.79	0.33	0.26	XT、XF、Ma				
5	蕨手刀	青森県八戸市丹後平33 号墳主体部	Eg	0.80	1.70	1.25	2.13	no	−	−	−	−
			Rg	−	−	−	−	Gl				
Rf1	方頭大刀	岩手県花巻市熊堂古墳群B地点	Eg	0.67	0.73	1.49	1.09	Wus、XF、Ma	−	−	−	−
Rf2	直刀	北海道平取町カンカン2 遺跡	Eg	0.94	0.44	1.06	0.47	Fa、Gl	−	−	−	−
Rf3	直刀	岩手県盛岡市宿田遺跡RX001 主体部	Eg	3.00	0.56	0.33	0.19	IO、Gl	−	−	−	−
Rf4	曲手刀子	北海道枝幸町目梨泊遺跡	Eg	6.80	3.20	0.15	0.47	no	−	−	−	−
			Rg	6.45	3.91	0.15	0.61	IO、Gl				

注1）化学成分分析はICP-AES 法による。
注2）no− 見出されず、Wus− ウスタイト、IO− 酸化鉄、XT− 鉄チタン酸化物、Fa− 鉄かんらん石、XF=Fe-Mg-Si-O系化合物、Gl= ガラス質ケイ酸塩、Ma= 微細粒子が混在したガラス化した領域。
注3）Co* =（mass% Co）／（mass% Ni）、Cu* =（mass% Cu）／（mass% Ni）、Ni** =（mass% Ni）／（mass%Co）、Cu** =（mass% Cu）／（mass% Co）

丹後平古墳群出土金属製品の中には、日本刀の成立につながる技術交流を考えるうえで重要な情報を有する資料が含まれている。日本刀は、「弯刀」、「鎬造」、および 「鏨金と鐔が茎に摺り合う状態で装着され、柄木に収まる刀装構造」の３要素が具備されてはじめて成立する。

その時期は平安後期と考えられているが、その成立を果たした地域は不明である

（ 財団法人佐野美術館 2003）

日本刀の成立に不可欠な3 要素のうち、「弯刀」については、東北地方北部および北海道から出土する蕨手刀の形態変化、さらには蕨手刀から毛抜型太刀への移行の中にその変遷過程をみてとれる。

丹後平古墳群から出土した蕨手刀には直刀タイプのII 型と、弯刀化が進んだI 型の２つのタイプがみられ、上記 ２資料から弯刀化への移行を辿ることができるが、「鏨金と鐔が茎に摺り合う状態で装着され、柄木に収まる刀装構造」の要素を具備していないことから、蕨手刀を日本刀の素形と位置づけることは難しい。

丹後平古墳群出土金属資料の調査を通して、大陸および畿内をはじめとする複数の地域から丹後平古墳群に、様々な形態と素材の金属製品がもたらされていた様子をみてとれた。

多様な金属製品を受容するためには、それに見合った経済基盤が整備がされている必要がある。交換経済の視点を加味し、 出土資料の更なる調査と他地域から出土した資料との比較検討を進めることにより、本シンポジウムが主題とする獅噛式三累環頭大刀柄頭の来歴を含む、丹後平古墳群における物質文化交流の実態が一層みえてくると思われる

丹後平古墳群出土金属器の材質と製作技法　岩手県立博物館　　赤沼　英男　より

■　論文　鈴木琢也　　擦文文化の成立過程と秋田城交易　　北海道博物館研究紀要　2016

https://www.hm.pref.hokkaido.lg.jp/wp-content/uploads/2016/09/2016HM01_p01_18.pdf

北海道の蝦夷と朝廷秋田の柵との交流　鉄製品・蕨手刀の物流ほか

■　古瀬清秀氏　日本古代における鉄鍛冶技術の研究　1998　　広島大学情報リポジトリより

https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/files/public/2/21004/20141016135941573579/diss_otsu3240.pdf

大著です　211ページにわたる古代鉄鍛冶技術研究のまとめ論文

2022.8.20.　Mutsu Nakanishi　作成

5.　和鉄の道・Iron Road　古代東北の鉄・　蕨手刀関連　掲載リスト

1. 黄金吹く行方製鉄遺跡群　福島県原町　蝦夷征伐の兵器庫　金沢製鉄遺跡　1999.
   https://infokkkna.com/ironroad/dock/iron/jstlaa04.pdf
2. 岩手県北上川流域の和鉄　2001.
   蝦夷の主要武器「蕨手刀」& 日本刀のルーツ舞草刀　を訪ねて一関博物館
   https://infokkkna.com/ironroad/dock/iron/jstlbb08.pdf
3. 田舎なれども南部の国は 西も東も金の山　2002.
   岩手県・南部 蝦夷の鉄 北上山系 大槌・釜石へ
   https://infokkkna.com/ironroad/dock/iron/kmaisi.pdf
4. 蝦夷の雄「アテルイ」蝦夷の雄:阿弖流為の痕跡　京都　清水山「清水寺・将軍塚」　2016.
   https://infokkkna.com/ironroad/2016htm/1603tpb01aterui.pdf
5. 蝦夷の鉄　古代東北の鉄　和鉄の道９編　2004
   https://infokkkna.com/ironroad/dock/iron/4iron06.pdf
6. 古代の製鉄遺跡　山田町船越「焼山遺跡」発掘現場を訪ねる　2014.6.8.
   https://infokkkna.com/ironroad/2014htm/iron10/1408yamada00.htm
7. 【参考】古代三陸で行われた鉄生産技術について　2014
   竪型炉と横型炉そして 鞴技術に着目して
   蕨手刀を手に大和と戦った蝦夷の鉄生産基地は三陸沿岸だったのだろうか????
   https://infokkkna.com/ironroad/2014htm/iron10/1408yamadakodaitetsu.pdf
8. <スライド動画>　東北三陸沿岸の Iron Road を訪ねる　2014.6.7-6.9
   宮古から久慈へ大震災・津波の被災地を結ぶ三陸鉄道 北リアス線に乗って北三陸沿岸をめぐる
   https://infokkkna.com/ironroad/2014htm/iron10/1410sanriku00.htm
9. 和鉄の道 鬼に関する掲載記事の再整理　仲間の鬼に思う　2018.2.3
   https://infokkkna.com/ironroad/2018htm/2018iron/18iron01.pdf
10. 私蔵版「和鉄の道・Iron Road」【Review2】たたら探訪通史（たたらの歴史）　2021.
    穴澤功氏講演資料「我が国の製鉄遺跡遺跡の歴史」をベースに和鉄の道を眺める
    https://www.infokkkna.com/ironroad/2021htm/iron17/R0312MutsuIronRoad2021B.mp4
    https://infokkkna.com/ironroad/2021htm/iron17/R0312MutsuIronRoad2021Bphoto.pdf

---

蕨手刀に思いを寄せて　NHK 歴史探偵「日本の刀剣」視聴記録

添付　蕨手刀を手に戦った東北の蝦夷に思いを寄せて　古代東北の和鉄の道　資料整理

2022.8.20.　Mutsu Nakanishi

1. 視聴記録作成の初めに　― NHK 歴史探偵「日本の刀剣」蕨手刀に思いを寄せて ―
2. 日本刀の源流　蕨手刀　　東北蝦夷が手にして征夷軍とたたかった蕨手刀　そのルーツは東国　今の群馬県
3. 古代　謎の刀「蕨手刀」初の科学調査に密着
   群馬県東吾妻町大宮巌鼓(いわつみ)神社の蕨手刀の Spring 8　放射光照射による断面解析
4. 蕨手刀　NHK 歴史探偵「日本の刀剣」視聴　関連資料リスト
5. 和鉄の道・Iron Road　古代東北の鉄・　蕨手刀関連　掲載リスト

2022.8.20.　Mutsu Nakanishi　作成

日本刀の源流「蕨手刀」に思いを寄せて

NHK 歴史探偵「日本の刀剣」視聴記録&資料収集

添付　蕨手刀を手に戦った東北の蝦夷に思いを寄せて
古代東北の和鉄の道 資料収集

R0409warabiteweb.pdf　　2022.8.20.　Mutsu Nakanishi

蝦夷に伝わって武器としての進化を遂げた蝦夷の「蕨手刀」　人数的に劣勢な蝦夷が
坂上田村麻呂などの蝦夷征討軍を苦しめる原動力に。そして日本刀の源流になったという

畿内政権と戦った蝦夷国アテルイの武器
蕨手刀の分布

騎馬部隊の存在…阿弖流為が、何故一次蝦夷征伐で朝廷軍を蹴散らせたか？
圧倒的な騎馬戦力が有ったからではないかと。
蝦夷３８年戦争により、騎馬部隊による斬撃の有効性が立証されたとしたら？
一機にその方向で戦略物資たる、太刀の構造や馬の確保の見直しが始まるだろう。
蕨手刀の能力を最大限に引き出すのは、騎乗で片手で振り回せる手軽さと、
片刃で柄が刀身に対し湾曲する「斬撃性」だった。
それを極限迄高めたのが…日本刀。そんな背景を持つ。

清水山将軍塚が見下ろす 京都 清水寺の舞台の下　緑に包まれる 蝦夷の族長　阿弖流為と母禮の顕彰碑

参考　蝦夷の雄「アテルイ」の痕跡「京都清水寺・将軍塚」
https://infokkkna2.com/ironroad2/2022htm/iron18/R0409warabitewebAterui.pdf

8月21日　久し振りに　阿弖流為/母禮の顕彰碑に出会ってきました。
平和に尽くした坂上田村麻呂と蝦夷の族長　阿弖流為に思いを馳せつつ
大きな時代の転換期の今　希望にみちた穏やかな未来がひらけるようを祈りました

NHK 歴史探偵「日本の刀剣」視聴記録&資料収集
添付 蕨手刀を手に戦った東北の蝦夷に思いを寄せて古代東北の和鉄の道 資料収集

https://infokkkna2.com/ironroad2/2022htm/iron18/R0409warabiteweb.pdf
https://infokkkna2.com/ironroad2/2022htm/iron18/R0409warabite.mp4
青森ねぶたのお囃子の音を聞きたくて 本資料をスライド動画にしてBGMに入れています